

長岡地区納税貯蓄組合連合会 会長賞 優秀

『税金パワー』をありがとう

長岡市立寺泊中学校

三年 五十嵐 千聖

普通に登校し、普通に自分の席につき、普通に教科書を開いて学ぶ。昼には、普通に給食を食べ、午後も普通に学び、普通に下校する。それが、私達中学生の『普通』だ。

でも、この普通には、絶対に欠かせないものがある。それは何だろうか。

机、教科書、黒板、給食。そして校舎。それらを用意するには、当然お金がかかる。そのお金を補助しているのが「税金」。そう、この「税金」こそが、私達の普通に欠かせないものだ。

「…この、『税』って何？」

私は、幼いとき、親にそう聞いた覚えがある。

『二〇〇円＋税』

お菓子にも、おもちゃにも、必ず『＋税』。何だこれ、と思って、聞いたのだろう。

そのとき、親がどう教えてくれたかは、はっきり覚えていない。もう、何年も前の話だ。でも、「ここに書いてある値段より、少し多くお金を払う」というようなことを言っていた気がする。幼い私は、不思議だった。

(どうして、お金を余計に払うんだろう。損するだけじゃない

の?)

八パーセントだとか、十パーセントだとかは分からないけれど、「税金を払うことで損をしている」というのが、税金の第一印象だった。

しかし、その印象は、しだいに変わっていった。小学生の頃からだ。

小学校高学年の頃に、税についてすっかり学んだ。

今使っている机も、今開いている教科書も、今見ている黒板も、これから食べる給食も。全て税金が使われている、とういことを知った。税金で、損なんかしないんだな、ということに気がついた。小学生一人当たりの年間教育費は、約八十八万円、ということとも学んだ。私は、とてもおどろいた。そして、今までの学校生活を振り返った。

授業を、すっかり受けていただろうか。校舎を、丁寧に掃除していただろうか。机や教科書に、落書きをしていなかっただろうか。給食を、残さずしっかり食べていただろうか。

もし、できていなかったら、私のために税金を払ってくれた人が損をしてしまう。

そうならないために、私にしかできないことは、何だろうか。

その答えは、単純で、簡単。

普通に登校し、普通に自分の席につき、普通に教科書を開いて学ぶ。昼には、普通に給食を食べ、午後も普通に学び、普通に下校すること。

普通だけど、幸せな毎日を送ること。

日本国民の皆さん。今日の私も、幸せです。『税金パワー』を、ありがとう。